

国立大学法人長崎大学入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	平成30年11月29日(木) 事務局3階 第2会議室	
委員	委員長 赤羽 耕介 (公認会計士) 委員 永田 雅英 (弁護士) 委員 本田 卓 (国土交通省九州地方整備局 長崎河川国道事務所長)	
審議対象期間	平成29年7月1日 ~ 平成30年6月30日	
抽出案件(合計)	7 件	(備考)
工事(小計)	7 件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
一般競争入札 (政府調達に関する協定対象工事)	0 件	
一般競争入札 (上記工事を除く)	6 件	
工事希望型競争入札	0 件	
通常指名競争入札	0 件	
随意契約	1 件	
設計・コンサルティング業務(小計)	0 件	
公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式(拡大)	0 件	
標準型プロポーザル方式	0 件	
一般競争入札	0 件	
随意契約	0 件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

質 問	回 答
<p><b>1. 国立大学法人長崎大学において発注した建設工事について</b></p> <p>(事務局より説明)</p> <p>・特になし</p> <p><b>2. 国立大学法人長崎大学において発注した設計・コンサルティング業務について</b></p> <p>(事務局より説明)</p> <p>・特になし</p> <p><b>3. 指名停止等の措置状況について</b></p> <p>(事務局より説明)</p> <p>・特になし</p> <p><b>4. 抽出・指定の考え方について</b></p> <p>(事務局より説明)</p> <p>・特になし</p> <p><b>5. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議</b></p> <p><b>(1)一般競争入札(最低価格落札方式)</b>  <b>【(坂本2)基幹・環境整備(医療ガス配管等)工事】</b>  (事務局より資料に基づき概要説明)</p> <p>・「再公告ではA等級を加えて、施工実績及び資格は求めなかった。」とあるが、そこが効果的だったのか。また、工事内容は公告時と同様か。</p> <p>・参加見込み業者数は、聞き取りによる見込みではなく、データベースを基に算出された方がよいのではないか。</p> <p>・落札率が低くなった理由について分析されているか。</p> <p>・どのような考え方で積算されているのか。歩掛りなどを使われているのか。</p>	<p>・工事内容は公告時と同様である。施工実績や配置予定技術者の部分を緩和したことにより、参加し易くなったと考えている。</p> <p>・今後はこちら指摘を踏まえ、データベースを基に参加見込み業者数を算出していきたい。</p> <p>・本案件については、低入札価格調査を実施し、内容確認を行っている。確認の結果、支障配管盛替工事の部分について、予定価格と入札金額との差が大きく、落札率が低くなった要因と考えられる。</p> <p>・前述の支障配管部分については、件名にもあるように、医療ガス配管が多くの範囲を占めていたため、専門業者から見積書を徴取し、査定率を掛けて算出している。歩掛りも使いつつ、組み合わせで予定価格を作成している。</p>

質 問	回 答
<p>・理由書の事後的な調査・分析及び改善策の中で「計画的な発注計画を立てる」とあるが、発注見込みを公表するなどされているのか。どういう工事をどの時期に出す、という情報を発信していれば、受注する側もそれを見越して入札に参加するかどうかを検討できると思うがいかん。</p> <p><b>(2)一般競争入札(最低価格落札方式)</b>  <b>【(坂本1)基幹・環境整備(支障配線盛替)工事】</b>  (事務局より資料に基づき概要説明)</p> <p>・理由書の事後的な調査・分析及び改善策で、「入札に参加しなかった業者に電話して問い合わせた。」とあるが、具体的に誰のことかご教示願いたい。</p> <p>・入札に参加しなかった業者とは、普段入札に参加している業者で、電話にて問い合わせたところ、「当初は参加予定で準備していた。」と回答があったということか。</p> <p>・「入札に参加しなかった業者に電話にて問い合わせたところ、当初は参加予定で準備をしていたが…」という文言が定型的な記載に見える。本当に問い合わせをしているのか。また、例えば、入札が終わった後に、参加しなかった業者に対してなぜ参加しなかったのか、と聞くということだと思うが、素人から見ると、とても違和感を感じる。</p> <p>・理由書の点検事項発生までの状況で「技術者の施工経験は特に求めなかった。」とあるが、理由があればご教示願いたい。</p> <p>・資料2の建設工事に係る発注一覧表を見ても、電気の場合、入札見積者数が少ないので、今回のように施工経験を求めないというのも一つの方法かと思うが、特殊な事情がある場合は別として、等級や地域要件を広げるなど他に方法はないのか。</p>	<p>・発注見通しは、年4回出している。ただ、本案件について言えば、専門外のとりこわしに伴う工事であったため、業者が参加を見送ったのではないかと考えている。</p> <p>・本案件の規模であれば、通常、数件問い合わせがあるが、今回は少なかったため、入札後、普段入札に参加している業者に参加できなかった理由について問い合わせた。</p> <p>・そのとおり</p> <p>・今後の入札の参考とするため問い合わせたものであるが、疑念をいだかれぬよう明確な説明に努めた。</p> <p>・一般に参加資格の一つとしての施工実績は、会社及び配置予定技術者の双方に求めるが、今回の工事内容及び規模では、技術者の資格保持の確認のみで十分との判断から、資格のみを求めた。</p> <p>・等級や地域要件には十分配慮しているが、それでもなかなか難しいのが現状である。</p>
<p><b>(3)一般競争入札(最低価格落札方式)</b>  <b>【(坂本2)歯学部教育研究棟便所改修機械設備工事】</b>  (事務局より資料に基づき概要説明)</p> <p>・他の案件の理由書でも同様だが、計画的に発注計画を立てて時期を調整する、というのが今後の参加業者の数を確保する対策であるが、具体的に何かあるか。</p> <p>・下半期で他の受注を想定されている業者が参加している状況を、なるべく前倒しにできるよう調整していきたいという認識、理解でよいか。</p>	<p>・今回の工事に関しては、予算確保等の学内調整に時間を要し、工事時期が、工事が集中する年末になった。今後、工事時期の年内平準化を念頭に学内調整を進めていきたい。</p> <p>・そのとおり。</p>

質 問	回 答
<p>・学内予算の内示時期は遅いのか。</p> <p><b>(4)一般競争入札(最低価格落札方式)</b>  <b>【(坂本1)ゲストハウス屋外ケーブル敷設等電気設備工事】</b>  (事務局より資料に基づき概要説明)</p> <p>・理由書の事後的な調査・分析及び改善策が定型的に見える。入札が難しいことは十分理解しているし、事務局に過大な負担を掛けたくないと思っているが、委員としては、個々の案件について、実際にどのような調査や分析を行い、その結果を基に検討した具体的な改善策の内容について審議を行いたいので、資料には可能な限り入札の難しさなどを含めた具体的な内容を記載いただきたい。</p> <p><b>(5)一般競争入札(最低価格落札方式)</b>  <b>【(坂本1)弓道場新営その他工事】</b>  (事務局より資料に基づき概要説明)</p> <p>・4者から入札があったものの落札率が99.85%となっている。4者程度から入札があれば、競争が働いて落札率も下がりそうだが、下がらなかった理由は分析されているか。</p> <p>・設計を入れての発注ということだが、技術提案の評価をするような総合評価落札方式の検討はされなかったのか。</p> <p><b>(6)一般競争入札(最低価格落札方式)</b>  <b>【(坂本1)基幹・環境整備(さく井)工事】</b>  (事務局より資料に基づき概要説明)</p> <p>・理由書で、「入札価格が安価になったのは、企業努力によるもので、特に諸経費等についてのコスト縮減が大きかった。」とあるが、落札業者は、今回、落札を強く意識していたのか、もしくは、当該業者の得意分野で、普段から同様の案件を受注しているため、仕入れが安価になったのか、どのように分析されているのか。</p> <p>・理由書の説明が簡単なので、今後作成するにあたっては、企業努力により経費が縮減された、など具体的に記載いただきたい。</p>	<p>・学内での予算配分後、更に部局内で予算配分を行い、必要事項に予算を充てたのちに、工事に充てる費用を工面するため、遅れが生じてくる。また、学校の特徴として、夏季・冬季休暇に集中するようなことがある。本案件は、冬季だが、通常、上半期、特に夏休みに集中することが多い。</p> <p>・ご指摘を踏まえ、定型的な記述とならないよう今後は案件ごとに可能な限り具体的な記述とするよう真摯に対応していきたい。</p> <p>・本案件については、設計・施工一括で発注しているもので、通常使用している積算基準があてはまらないため、予定価格を作成するにあたって、多くは業者からの見積書の最低額を参考としている。他の3者が積み上げた応札金額はこれに見合わなかったものと思われる。</p> <p>・総合評価については、学内で対象金額を決めており、それ以下だったというのもあるが、小規模の弓道場だったため、技術提案を求める内容ではないと判断した。</p> <p>・落札業者は、自社で資機材を保有しているということで、一括施工が可能だったということ、また、他にも本学での工事実績があり、工事現場を熟知されていたため、諸経費が縮減されたものと考えられる。</p>

質 問	回 答
<p><b>(7)随意契約</b>  <b>【(坂本1)ゲストハウス環境整備工事】</b>  (事務局より資料に基づき概要説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貴学の会計規則の中で、2回応札を行っても入札者がいなかった場合は、随意契約によることができるという規定があるのか。</li> </ul> <p>1回目、2回目の入札が成立せず、随意契約で契約に至った経緯や流れを、事務局が行った努力等を含め説明願いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事内容をみると外構工事ということで、難易度が高いとは考えられないので、相応に手が挙がりそうだが、やはり時期的なものがあったのか。</li> </ul> <p><b>6. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総評として、まず一点目は、計画的な発注計画を立てた上で、可能な限り前倒し発注を行っていただきたい。次に、二点目として、事後的な分析の記述では、今後の発注における改善に繋がるように、定型的内容を記載するのではなく、実際に分析、検討した内容を可能な限り具体的に記述いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の契約事務取扱規程で規定している。</li> </ul> <p>1回目の公告は10月24日、2回目の公告は、金額を変えずに11月8日に実施したが、どちらも参加者がいない入札不調となった。そのため、本学の規定に基づき随意契約を行ったもの。随意契約に向けては、工期を2月28日から3月15日に延ばし、本学での工事実績のある14社に見積り合わせを依頼し、2者から応札があり、落札に至ったものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末は工事が集中しており、業者も手持ち工事が多く、参加が難しかったものと思われる。</li> </ul>